

学校教育目標	「自ら考え、人とつながり、未来をつくる永谷の子」 ○基礎・基本を身に付け、自ら問題を発見し、よりよく解決する力を育てます。(知) ○自信をもち、よいよい生き方について深く考えて行動する力を育てます。(徳) ○自ら健康を保持増進し、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体) ○自分の役割や働くことの意義を理解し、自ら考え行動する力を育てます。(公) ○自分を見つめ、多様性を尊重し、価値観や背景の異なる相手と共生する力を育てます。(開)				
	創立 47 周年	学校長 平野 好子	副校長 菅原 明子	2 学期制	一般学級：14 個別支援学級：4
学校概要	児童生徒数： 462 人 主な関係校： 上永谷中学校 永野小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	上永谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p style="text-align: center;">＜自分づくりに関する力＞ ＜問題発見・解決能力＞ ＜言語能力＞</p>	<p>上永谷中学校 永野小学校 永谷小学校</p>	<p style="text-align: center;">自尊感情を育み、主体的に学び、社会とつながる 児童・生徒の育成</p> <p>・児童生徒理解研修を行い、児童生徒の特性について情報交換する。 ・ブロック合同授業研究会を行い、9年間で育てたい資質・能力についてより具体的に共通理解したり、つながりを意識した指導計画を立てたりする。 ・小学生の授業見学や部活動体験、中学校教員による小学校での派遣授業等、職員や児童生徒の交流を進んで行う。</p>

中期取組目標	<p>○自尊感情を育み、主体的に学び、人とつながる児童を育成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「問題解決に向かって、協働的・主体的に学び合う子どもの育成」をテーマに研究と実践を進めます。</li> <li>・一人ひとりの自尊感情を高め、子どもが素直に自分自身を振り返ることができる風土をつくります。</li> <li>・健康や運動への関心を高め、子どもがよりよい生活習慣を身に付けるための取り組みを推進します。</li> <li>・特別活動や総合的な学習の時間を中心に、子どもが役立つ喜びを感じられる活動をつくります。</li> <li>・個性や考え方を尊重し合い、共生するよさを実感できる活動をつくります。</li> </ul>
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく 学力の向上	本校の研究主題である「問題解決に向かって、協働的・主体的に学び合う子どもの育成」の実現を図るため生活科・社会科を通して、子どもが自分事として取り組める学習問題の工夫や、子どもが主体的に問題を解決するための手立てを研究する。
徳 豊かな心の育成	誰もが安心して自分らしく学校生活を送れるようにするために、道徳の授業を要とし、授業の中で本音で語り合える授業展開を図り、友達との考えを交流することを通して、道徳的価値を養っていく。また、人権週間等で横浜プログラムを活用しながら、互いを認め合える関係づくりを図り、一人一人の自尊感情を高めていく。
体 健康の 保持・増進	①授業ではコロナ禍における体育科学習の在り方を考えたり、体育協会とタイアップしてスポーツリズムトレーニングを取り入れたりして、運動の機会の確保を行う。②学校保健委員会の活動を年間通して行い、児童会活動とタイアップしていくことで、全校で健康の保持増進や安心な学校生活づくりを考えられるようにしていく。
公 開 共生力の育成 キャリア教育	①従来のたてわり班活動に加え、ペアーズ活動を取り入れることで、より相手意識を持てるようにする。さらに、1・6、2・3、4・5のペアを作ることで次年度や卒業学年で目指す姿を具体的にとらえられるようにする。②児童会目標を意識した、年間を通した行事を行い学校ワッチャムでの生活を感じられるようにする。
児童理解 いじめへの対応	①子どもたちの学校生活の様子について、月に一度の校内委員会で、子どもたちの現状について分析し、より良い育ちに向けて組織的な対応を適切なタイミングで行う。②各学年主任が所属するいじめ防止対策委員会の月例会を充実し、いじめ対応への理解を深めるとともに、未然防止に向けた感性を磨けるようにする。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①経験年数10年以下の教職員で研修を行い、コミュニケーションをとりながら困り感やアイデアを共有して業務に生かせるようにする。②チーム学年経営を推進し学年やブロックで同じ意識で子どもを育てていく。③業務内容を分類整理して、会議や提案を精選し減らすことで、ほかの業務に当たれる時間を確保する。
特別支援教育	特別支援コーディネーターを中心とした校内委員会を月例で確実に実施していくことで、各学級にいる特別支援を要する児童たちに対して行える具体的な方策について組織的に検討し、実施していく。また、コンサルテーションや教育相談といった外部機関との連携について、積極的にやっていく。
ICT活用	①学年に応じた端末の操作方法の目標を明確にし、各教科の学習の中で活用していくことができるようにしていく。情報モラルについて身に付けていくことができるようにする。②授業の中での情報機器活用だけでなく、各家庭と連携して活用を推進する。
地域連携	各教科等の学習の中で、児童が地域の人々や環境に目を向け、地域の一員としての生き方を考えられるようにする。地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりを進めていくために学校運営協議会を設置する。
担当	教務
担当	